



地球温暖化対策を考えるための エネルギー・シナリオ分析：

2050年とその後を見据えて

世界中で気候変動の対策が加速しており、本年6月大阪で開催されるG20サミットの主要議題の一つとしても目されております。日本においても4月23日にパリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（案）がまとめられ、政策の議論は再生可能エネルギーの着実な主力電源化、非連続なイノベーションの実現や、2050年とそれ以降を見据えた脱炭素化に移りつつあります。今回のシンポジウムでは日本を代表するエネルギー・シナリオ分析の研究者をお呼びして、環境研究総合推進費2-1704の研究成果を踏まえ、日本の2050年、また2050年以降の気候変動緩和策のあり方について多面的に検討して参ります。

アジェンダ（予定）

◆ご挨拶

14:00-14:10 高村ゆかり
東京大学未来ビジョン研究センター 教授

◆プレゼンテーション

14:10-14:30 井上智弘
科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター 主任研究員
「低炭素技術開発の技術・経済性評価とゼロカーボン電源システムの構築」

14:30-14:50 松尾雄司
日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット
計量・統計分析グループ 研究主幹
「電力部門の経済性評価と低炭素化に向けた課題」

14:50-15:10 小林辰男
日本経済研究センター 政策研究室長兼主任研究員
「デジタル経済化のCO2排出量への影響」

15:10-15:30 増井利彦
国立環境研究所 社会環境システム研究センター
統合環境経済研究室 室長
「わが国における2050年のゼロ排出に向けた可能性と課題」

15:30-15:50 杉山昌広
東京大学未来ビジョン研究センター 准教授
「日本におけるモデル相互比較プロジェクト：大幅削減への含意」

◆パネルディスカッション

15:50-16:30 講演者ほか

◆日時

2019年5月31日（金）
14時00分から16時30分
13時半開場

◆会場

東京大学本郷キャンパス
経済学研究科学術交流棟・小島ホール（2F）
小島コンファレンスルーム

◆主催

東京大学未来ビジョン研究センター
国際エネルギー分析と政策研究ユニット

◆備考

入場無料・事前申込制



東京大学未来ビジョン研究センター
Institute for Future Initiatives



事前申込
※定員に達した場合、受付を終了させていただきます。

※プログラムは都合により変更になる場合があります。

※本シンポジウムは環境研究総合推進費2-1704日本における長期地球温暖化対策経路の複数モデルを用いた評価と不確実性の分析の一環として開催されます。

◆アクセス



経済学研究科学術交流棟・小島ホール

◆お問い合わせ

東京大学未来ビジョン研究センター
E-mail: sugiyama-staff@ifi.u-tokyo.ac.jp